見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

November 2018 vol.55

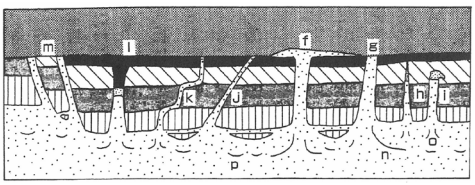
November
S M T W T F S
1 2 3
4 5 6 7 8 9 10
11 12 13 14 15 16 17
18 19 20 21 22 23 24
25 26 27 28 29 30

◆尾張国府跡（おわりこくふあと）

所在地：稲沢市国府宮
交　通：名鉄本線「国府宮」駅 北東 約 350m

日本列島ではかつて、国ごとに中央政府の出先機関である国府が設置されていました。稲沢市の尾張国府跡は、周辺に尾張国分寺や、中世には尾張国の守護所であった下津城跡などの関連する遺跡が分布することから、愛知県西部・尾張国の国府所在地として最有力候補とされており、1977 年から 1990 年にかけて、尾張大国霊神社（国府宮神社）を中心にした約 800m 四方の範囲で稲沢市教育委員会によって発掘調査が行われています。

遺跡の発掘調査は考古学の世界ですが、発掘調査に伴って発見された液状化や地割れなどの地震跡は、地震考古学において過去の地震を推定する貴重な資料となります。例えば、液状化による典型的な噴砂跡の場合、地層の断面図を見ると発生した状況や時代がよくわかります。地層に現れる地震跡の形成年代は、「地震跡（噴砂）が切る（分ける）地層は地震より古く、地震跡を覆う地層は地震より新しい」という原則に従って絞り込みます。（下図のｆやｇは地層に現れた噴砂跡で、下の層から砂が噴き上げています。斜線や黒ベタの層は噴砂によって切り裂かれた地震より古い年代のもの、噴砂の上に覆いかぶさる一番上の層は地震より新しい年代のものとなり、各層の形成年代から、地震の発生年代を推定します。）



発掘された地震痕跡 より

稲沢市教育委員会によって行われた尾張国府跡の発掘調査でも、液状化の痕跡と見られる噴砂跡が発見されています。尾張国府跡の噴砂跡では、下の層から噴き上げた砂が中世以降に形成された層を引き裂き、現代に整地された層に上端部を削られており、このことから、明治 24（1891）年の濃尾地震により液状化が発生していたのではないか、と推測されています。（明応 7（1498）年の明応地震、天正 13（1586）年の天正地震の可能性も指摘されています。）

稲沢市では尾張国府跡以外にも、東畑廃寺跡（稲島町）、一色青海遺跡（一色青海町）、儀長正楽寺遺跡（儀長町）、堀之内花ノ木遺跡（堀之内花ノ木町）、地蔵越遺跡、北市場屋敷遺跡（以上、北市場町）で地震痕が発見されています。（年代については右表参照）

	弥生時代	天平745	仁和887	明応1498	天正1586	濃尾1891	昭和1944
東畑廃寺跡				▲	▲		●
一色青海遺跡	●					●	
儀長正楽寺遺跡						●	●
堀之内花ノ木遺跡						●	
地蔵越遺跡		●	●			●	●
北市場屋敷遺跡						▲	▲

稲沢市内で発見された地震痕と年代（▲は可能性）

沖積平野である濃尾平野は、地層の堆積が急で、かつ各時代ごとに分層が比較的容易な地層が形成されており、また軟弱な地盤であることから、数多くの地震跡が発見されています。特に、濃尾地震の影響については非常に広範囲で見られ、濃尾平野の発掘調査を行った遺跡の大部分で確認されています。（「発掘された地震痕跡」（埋文関係救援連絡会議・埋蔵文化財研究会、平成 8 年）参照。この資料には、現在の一宮市から名古屋市にかけて、濃尾平野で行われた発掘調査による地震跡がまとめられており、地震発生時期についての考察がなされています。）

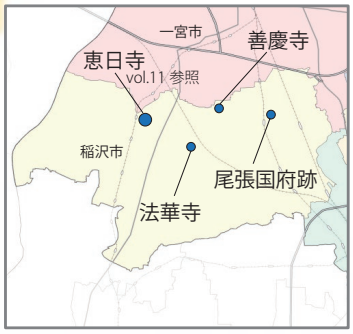
◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆尾張国府跡の周辺には…

● 法華寺（ほっけじ）

所在地：稲沢市法花寺町熊ノ山
交　通：名鉄尾西線「森上」駅 東 約 3.5km

法華寺では、明治 24（1891）年濃尾地震の際に本堂が倒壊しています。その後、庫裡を建て仏様をその一室に安置した、と伝えられています。（本堂は大正 4 年再建）



● 恵日寺（えにちじ）（震災紀念碑）

所在地：稲沢市西島
交　通：名鉄尾西線「山崎」駅 北東 約 400m

恵日寺にある震災紀念碑には、明治 24（1891）年の濃尾地震発生時の状況や、男女 11 人の即死者があったこと、「おそろしきなゐ（なゐ：地震のこと）に残りし人もなし」と地震への恐怖が記されています。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をご覧ください。

★ そぶえイチョウ黄葉まつり

ギンナンで有名な稲沢市の祖父江町には、1 万本以上のイチョウの木があります。秋も深まり、イチョウが金色に色づく頃になると、そぶえイチョウ黄葉まつりが開催されます。（平成 30 年は 11 月 23 日から 12 月 2 日）

メイン会場となる名鉄山崎駅周辺や祐専寺には、樹齢 200 年を超える古木や、稲沢市が原産となる久寿（品種）の原木、イチョウ並木のトンネルなど見所が満載で、期間中は午後 5 時からライトアップも行われます。この他、11 月 23 日・24 日には祖父江町体育館会場でステージイベントやギンナンの試食、物産販売などが、11 月 25 日にはサテライト会場で田んぼコンサートなどが催されます。

Aichi Now HP より

11 月のあいちの花

平成 30 年 11 月のあいちの花はアナスタシアです。アナスタシアは、洋菊の改良品種のひとつで、ブライダルシーンなどでも利用されるカジュアルな菊です。花弁が花の中心から花火のようにまっすぐに広がり、凛とした繊細な華やかさがあります。緑、ピンク、ブロンド、藤色など、カラーバリエーションも豊富です。

自然な状態で育てると 1 本の枝に数輪の房咲きとなりますが、芽摘みをして 1 輪咲きとしたものは、輪径が 10cm 以上になるものもあります。

普通の菊は蕾の状態で出荷されるのが一般的ですが、アナスタシアは咲いた状態で一輪ずつネットで包まれ流通します。

●ブレイクタイム●

♪ 祖父江ぎんなん

イチョウの木は、江戸時代から防火・防風用に屋敷の周囲に植えられてきました。イチョウの木に実るギンナンは、古くは米の凶作時の備蓄食糧とされていましたが、祖父江では 100 年ほど前に大粒種の商品価値が見出され、大々的に商品としての生産が始まりました。「祖父江ぎんなん」は大粒でもっちりとした食感が特徴です。早出しギンナンとして 7 月から出荷される金兵衛、もっちりとした食感で苦みが少なく粒揃いの良い久寿（久治）、胴張りが良く凹凸が少ない実で、4 月頃まで出荷できる栄神（栄信）など、祖父江生まれの品種もあります。

祖父江ぎんなんブランド
推進協議会 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　平成 30 年 11 月）